

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	17	学 校 名	静岡県立裾野高等学校	校 長 名	田代 直彦
------	----	-------	------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	社会に適応できる基本的生活習慣の確立に向けた指導を充実する	裾野高校に入学してよかったと答える生徒100%【全員】	よかったと答えた生徒81%（81%） （）内昨年度	B	昨年度と同等であるが、さらに教育活動全体を通して学校の魅力を高める。
		服装が良いと答える生徒90%以上【生徒課他】	よいと答えた生徒95%（95%）	A	生徒の服装への自覚は、向上している。
		挨拶ができると答える生徒90%以上【生徒課他】	できると答えた生徒89%（84%）	A	日頃の声掛け等により生徒自身の意識が向上し、挨拶のできる生徒が増えている。
		出席率98.0%以上 遅刻・早退件数前年度比30%減【教務研修課他】	出席率97%（96%） 遅刻8%減、早退39%減	A	出席率は向上、遅刻・早退については減少した。引き続き家庭との連携と図っていく。
		基本的生活習慣の指導が適切に行われていると答える生徒85%以上【生徒課他】	適切に行われていると答えた生徒86%（86%）	A	日々の生活の中で、基本的生活習慣の指導を引き続き適切に行っていく。
		委員会活動が活発であると答える生徒65%以上【生徒課他】	活発であると答えた生徒58%（50%）	B	各委員会の活動を活発にしていく。生徒数に合わせて委員会の数の調整が必要となる。
イ	望ましい社会性、規範意識を育成し、生徒の自立性・社会性を伸長し、命を尊び健康で安全な生活を送らせる。	全校集会、学年集会で生徒に問題行動予防のための講話を毎回実施 問題行動の発生件数前年度比20%減【生徒課他】	式典、集会で毎回注意喚起を行った。 問題行動の件数は、11件（25件）55%減	A	SNSに係る犯罪、闇バイト等の指導の継続により、問題行動の件数は大きく減少した。ネット安全マナー講座やネット依存トラブル対策プログラム等を継続していく。
		PTA・地域との連携による交通安全指導を実施し、交通事故件数を前年度比20%減	交通事故4件（5件）20%減	B	交通安全教室の開催、登下校の指導、日常の呼びかけの強化を図る。自転車のヘルメット着用を推進する。 スマホの適性使用に関して、業者による分析結果をもとに、個

	外部講師による交通安全教室を年2回実施 いじめ防止・スマホの適正使用に関する研修会（生徒・教員）2回以上実施 教育相談委員会の実施を年間6回以上 健康・安全に関する指導が適切に行われていると答える生徒90%以上【生徒・保健相談課他】	交通安全教室2回実施 いじめ・スマホ研修2回実施 教育相談委員会の実施なし 健康・安全に関する指導が適切に行われていると答えた生徒87%（79%）		別指導に活かした。 教育相談委員会やケース会議を適宜開き、必要に応じて外部機関と連携しながら、生徒の抱える問題の解決や改善に努める。
	避難訓練を年3回実施。避難訓練は大切と答える生徒95%以上 地域防災訓練参加率前年度比10%増【総務図書課他】	避難訓練は3回実施 訓練は大切と答えた生徒96%（95%） 地域防災訓練参加生徒7.6%（27人） 昨年より増えている。	A	訓練の重要性を理解している生徒は多いが、地域防災訓練の参加率へ結びついていないため、さらに呼びかけ等を強化したい。
	保健便りを年10回は発行 疾病治療60%以上 特に、歯科受診率30%以上 朝食摂取率95%以上【保健相談課】	保健だよりは年8回発行 疾病治療44.4% 歯科受診率20.5%（30%以下） 朝食摂取率80.1%（81%）	B	保健便りの発行によって、時節による健康管理上の注意喚起を促すことができた。 受診率、朝食摂取率ともに高くないため、C-ラーニング等を用いた保護者への呼び掛け等も検討する。
	教職員は生徒の話を親身になって聞いてくれると答える生徒90%以上 生徒面談年3回以上 生活アンケートを年3回実施し、問題がある場合は関係教職員が即座に対応 定例いじめ対策	親身になって聞いてくれると答えた生徒91%（82%） 生徒面談3回以上実施 生活アンケート3回実施 定例いじめ対策委員会2回	A	面談、生活アンケートは計画通り実施できた。特にアンケート等は、端末の利用により生徒も回答しやすくなり、より実態を把握できるようになっている。 C-ラーニングの使用により、生徒との相談等についても丁寧な対応が迅速にできるようになった。

様式第3号

ウ		委員会を年3回開催【保健相談課他】	実施		
		清掃により校内美化が保たれていると答える生徒80%以上【保健・相談課】	校内美化が保たれていると答えた生徒75.9% (61%)	A	トイレの使用等、施設の環境維持において、生徒自身が心掛け、改善に向け努力している。さらに利用マナー等について、呼びかけの強化が必要である
	総合学科の特色を生かして、地域人材の活用を図り、基礎基本の定着や課題解決能力の向上を図る。	新教育課程・学習評価及びICT活用に関する研修を年3回以上実施【総務研修課他】	評価・ICT合わせて3回実施	A	端末の活用度の定着により授業でのICT活用頻度は上がっている。さらに効果的な活用方法について研修を重ねていきたい。
		家庭学習をよくやっていると答える生徒35%以上 基礎力診断テストにより基礎学力の定着度が把握できたと答える生徒80%以上 授業で力がついたという生徒80%以上【教務研修・進路課】	家庭学習をよくやっていると答えた生徒40.9% (38%) 基礎学力の定着度が把握できたと答えた生徒70.9% (69%) 授業で力がついたと答えた生徒84.8% (82%)	A	昨年度に比べ、家庭学習への取組、学力の定着、授業で力がついたという実感、全てにおいて上昇している。 小テストや課題等への取組により、学習習慣が身に付いている生徒は一定数いる。 基礎学力テストの客観的数値でも前回に比べ、成績が上昇した生徒の割合が増えている。
		授業がわかると答える生徒85%以上【教務研修課他】	授業がわかると答えた生徒90.1% (82%)	A	生徒による授業評価等を実施し、授業改善を行った成果がでている。
		家庭学習時間調査を定期的に行い、平日が40分以上、休日が60分以上と答える生徒が80%以上【教務研修課他】	平日40分以上19% 休日60分以上10%	C	各教科で課題や小テスト等を調整して、毎日の学習時間の確保を図る。 家庭との連携をより積極的に図る。
		朝読書はよい効果があると答える生徒70%以上 生徒の借りる本平均4冊以上【総務図書課他】	よい効果があると答えた生徒67.3% (63%) 平均借り出し冊数2.3冊 (3.5冊)	B	朝読書による読書の習慣化は見られる。 図書便り等により読書への関心を深める。 自分で購入し読書をする生徒もいるため、調査の仕方を検討する。

様式第3号

		系列や選択科目が希望進路に応じていると答える生徒 90%以上 オープンスクールにおける来校者の満足度 97%以上 地域人材の活用 150 件以上 地域関連事業の実施年 30 件以上【教務研修課他】	希望進路に応じていると答えた生徒 93% (88%) 一日体験授業において、授業がよかったと答えた中学生は 98% 地域人材の活用 146 件 地域関連事業の実施 46 件	A	系列の選択については、ガイダンスや個別面談等を通じて、ほぼ満足のいく選択ができた。 一日体験入学やオープンスクールの来校者は授業や施設見学、学校説明等で本校に対する理解を得られている。
エ	キャリア教育を推進し、地域や産業社会の変化に対応しながら自己実現のできる人材育成を図る。	3 年生の就職者の第一志望合格率 90%以上 3 年生の進学者の第一志望合格率 90%以上 3 月末までの進路決定 100% 進路決定に向けた指導が充実していると答える生徒 90%以上【進路課他】	第一志望合格率 95% (93%) 進学者の第一志望合格率 98.4% 進路決定 100% 指導が充実していると答えた生徒 87.8% (84%)	A	入念なマッチングと担任間の情報交換に加え、面接対策や履歴指導等を綿密に行った結果、高い内定率を出すことができた。 進学についても、個別指導等の効果が見られた。 また、全職員で 3 年生の進路指導に当たる体制も好結果に結びついている。
		「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」が自己のためになったと答える生徒 80%以上【総合学科キャリア広報推進室】	自己のためになったと答えた生徒 70.3% (68%)	B	1 年生は、探究活動の基礎力、スキルを身に付けることができた。 2 年生は、地域貢献活動によって裾野市の魅力や課題を発見することができた。 3 年生は、自己の将来について主体的、具体的に考え事故の在り方生き方を考えることができた。
		インターンシップ参加者 2 年生（就職希望者） 100% オープンキャンパス参加者（進学者） 100% 志望学部・志望学科・志望職種が明確になった	就職希望 2 年生 100%参加 進学希望オープンキャンパス参加者 100% 志望学部等が明確になった	A	継続して、進路希望調査やインターンシップを夏休みに実施するなどして、生徒の進路意識を上げる手段とする。 様々な進路行事を通して自分の進路について、じっくりと考えていると言える生徒もいる一方で、専門学科と比べて希望を固めることが遅い傾向もあり、早い段階からの進路意識の向上を

様式第 3 号

		と答える 2 年生 90%以上 自己の進路目標に即して系列を選ぶことができた と答える 1 年生が 90%以上【進路課他】	と答えた 2 年生 75% (83%) 系列を選ぶことができた と答えた生徒 84.5% (82%)		図りたい。
		平日、休業中の補習参加者 各学年 60 人以上 【進路課他】	1 年 実施なし 2 年 放課後講習 16 人 (5 人) 3 年 放課後講習 25 人 (63 人)	B	2, 3 年生の補習希望者は概ね参加することができた。
オ	学校行事、特別活動、部活動を充実し、生徒に自信と誇りを持たせ、学校の活性化を図る。	生徒会活動は行事の成功につながっていると答える生徒 90%以上 学校行事は充実していると答える生徒 90%以上 【生徒課】	行事の成功につながっていると答えた生徒 87.4% (78%) 充実していると答えた生徒 88.8% (85%)	A	広報活動を広げるなどして、執行部は積極的に活動している。 五龍祭、球技大会等生徒が主体的に考え、運営することができた。
		HR 活動を通してクラスのまとまりがあると答える生徒 90%以上 【生徒課他】	まとまりがあると答えた生徒 82.8% (79%)	B	学校行事等を通じて、さらにクラスのまとまりを強めたい。
		所属している部活動に満足していると答える生徒 85%以上 【生徒課他】	満足していると答えた生徒 78.2% (80%)	B	部活動の統廃合が進む中でも、生徒の興味・関心に応えられる活動を行っていく。
カ	保護者や地域住民等への広報活動を充実し、地域貢献活動を活発に行う。	HP を活用して毎週 1 回以上の情報を発信し、月のアクセス数を 2,500 以上とする。 HP や C ラーニング等で学校の様子を知ることができると答える保護者 90%以上 各学年部は学期に 3 回以上保護	HP にて情報発信し、アクセス数も大幅に超えた。 HP や C ラーニング等で学校の様子を知ることができたと答えた保護者 89.8% (90%)	A	県のシステムの変更に伴い、さらに情報発信の場として活用する。 C ラーニングの導入により、生徒・保護者への連絡が密に行えるようになった。

様式第3号

		者に対して学校の様子がわかる広報紙を発行する。 報道提供件数20件以上 【情報委員会・総務・学年他】	学年部からの広報等は、C-ラーニングにて広報した。 報道提供件数は、30件		
		地域向け学校広報を月に1回発行する。【総学広報】	毎月1回発行した。	A	月ごとの発行だけでなく、紙面の充実等の工夫も行われた。
		PTA総会・学年保護者会の出席率30%以上 PTA活動の趣旨を十分理解して参加していると答える保護者70%以上【総務図書課】	総会出席率20.5% (22.8%) 十分理解していると答えた保護者61.3%(57%)	B	総会時に各学年の行事を取り入れるなど、工夫をした。 会員数の減少に伴って、役員数や仕事の内容の見直しが必要。 また、今後総会の在り方についても検討していく必要がある。
		清掃活動以外の一部活動一ボランティア活動の実施100%【生徒課他】	3部活で実施した。	C	さらに多くの部活動での活動ができるとよい。
キ	職員及び生徒の国際化を推進し、グローバル人材を育成する。	地球的規模の課題について興味を持ったと答える生徒60%以上 英語検定合格者数 3級15人以上 準2級10人以上 漢字検定合格者数 2級5人以上、準2級10人以上 数学検定合格者数 準2級5人以上 商業検定合格者数 全商検定(簿記・情報・電卓)1級20人以上【学年部・総合学科・教科】	興味を持ったと答えた生徒53.8% 英検合格者3級3人、準2級0人、2級1人、 漢検合格者2級1人、準2級0人、(3級9人) 数学検定準2級2人 商業検合格者全商1級3人	B	検定実施の際、授業等での生徒連絡を徹底することで受験者数を上げていく。 リスニング直前対策や個別指導により挑戦で受ける生徒も多かったため、合格者は目標達成できなかったが、意識づけができた。(英検) 3年生が積極的に受検した。全学年から受検者が出るように、授業等を通して積極的に声掛けが必要である。(漢検) 受検への呼び掛けをさらに促したい。(数検) 系列にとらわれず、全ての生徒に受検の機会を知らせて挑戦を促すことができている。今後も継続して積極的に受検するような環境づくりに努める。(商業)
ク	教職員は研修に積極的に参加し、組織的	授業参観後の合評会や生徒によ	授業評価アンケートを実施	B	授業評価アンケートの結果を踏まえて、各教員が授業改善に努

	な取組により学校力の向上に貢献する。	る授業評価アンケートを非常勤講師まで含んで100%実施【教務研修課】	した。(非常勤講師を除く)		めている。 授業公開週間後の意見交換等をさらに充実したものにしたい。
		「主体的・対話的で深い学び」及び「ユニバーサルデザイン」を意識して授業を行う教員の割合が100%【教務研修課・教科他】	意識して授業を行うと答えた教員 97.1% (90%)	A	研修でも取り入れ、理解を深めている。また、ユニバーサルデザインへの意識もかなり向上している。
		必要な生徒に対して個別支援計画を作成 UD教育を取り入れる教員 100%【保健相談課】	UD教育を取り入れている教員 88.2% (91%)	B	個々の生徒への対応や指導を行うことができた。個別の対応が充実してきており、通級指導による生徒の満足感が高い。
		教務・研修課、生徒課の連携により、採用1～3年目の教員のための生徒指導に関する研修を導入する。 教職員が連携し、カリキュラム・マネジメントを意識した教育活動を実践し、教育効果が上がったと実感する教員 80%【教務研修・生徒課】	若手教員の情報交換ならびに各課の先輩教諭からの助言によって、指導力の向上を図った。 教育効果が上がったと実感する教員 79.4%	A	若手教諭の情報交換ならびに各課の先輩教諭からの助言によって、指導力の向上を図った。 基底にある探究的活動への意識や教科横断型の授業内容等、より多岐に渡るカリキュラム・マネジメントの意識を醸成するために、教科間の情報交換をさらに密に行っていく。
ケ	教職員は業務の効率化を図り、ワークライフバランスに努める。また、次世代育成支援を意識した行動に取り組む。	月曜日の定時退勤励行 (午後6時完全退勤) 午後8時完全退勤 90%以上 夏季休暇完全取得 一人当たり時間外勤務月平均30時間以下 一人当たりの年休取得日数平均	午後8時完全退勤は、年度初めや高校総体等の時期を除けば、概ねできていた。 夏季休暇取得はほぼ全職員が5日間取得済。 部活動等の多忙期は、半数の職員は、時	A	超過時間の多い教員については、管理職および産業医による面談を実施。働き方について、見直す機会を作った。 業務削減への取組をさらに進めていく。

様式第 3 号

		13 日以上【全員】	間外勤務月 30 時間以上であったが、オフシーズンでは、時間外は減少した。 一人当たりの年休取得数は、1 / 3 の職員が取得した。		
コ	安心安全な教育環境の整備、充実に努める。	体罰、セクハラ等サービス事故 0 件 施設設備に起因する事故 件数 0 件 監査、検査での指摘、文書指導等の件数 0 件 学校の施設・設備が整備されていると答えた生徒 85%以上 警報時の対応について承知していると答えている生徒や保護者 85%以上【管理職・事務部・保健相談課】	サービス事故 0 件 施設設備に起因する事故件数 0 件 監査、検査での指摘、文書指導等の件数 0 件 整備されていると答えた生徒 76.2% 警報時の対応について承知していると答えた生徒 86% 保護者 79%	B	体罰、セクハラ等については、研修等を実施して、教員のコンプライアンス意識の向上を図っている。 施設設備については、校舎等の老朽化もあるが、エアコンの設置等環境の整備ができている。 警報時の対応については、ホームページを活用するなどして徹底を図りたい。